

長野県の植物覚書

今井建樹

Kenju Imai: New and noteworthy plants at Nagano Prefecture

1 ミヤマモジズリの白花品

1990年8月29日に石灰岩地の戸台白岩でミヤマモジズリの白花品が見られた。これは完全な白花品であった。花色以外はミヤマモジズリと特に差異は認められなかった。未発表であると思われるのでシロバナミヤマモジズリとして記載しておきたい。

標本 長野県上伊那郡長谷村戸台白岩 (今井建樹, 1990.8.29, SHIN 170011)

口絵 1 参照

Gymadenia cucullata (L.) Richard f. *alba* K. Imai, f. nov. Floribus albis, cetera ut in typo.

Type: Nagano Pref., Kami-ina-gun, Hase-mura, Todai, Shiraiwa (K. Imai, SHIN 170001).

Photo: Plate I - fig.1.

2 エンビセンノウの白花品

エンビセンノウは環境庁委託の絶滅危惧植物調査に因れば、現時点では絶滅危惧種に入っている。分布は北海道・埼玉・長野に現存し、山梨は現状不明、青森では絶滅と考えられ、限られた地域のみに見られるものである。生育地が多湿地であって、開発などによって湿地は失われ、花色も深紅色と美しいために乱獲されて絶滅しようとしている種である。1994年8月5日霧ヶ峰の標高1360m地点の小川の岸で偶然に深紅色花と混生している白花品を見いだした。この年は猛暑が続き、降雨も極めて少ない年であった。この地方では花期は8月下旬から9月上旬にかけてであるが、気象の関係か花期が半月も早かった。花は完全な白花品であった。花色を除くと形態的にも生態的にも差異は認められなかった。茎葉がやや粉白を帯びていた程度であった。未発表であると思われるのでシロバナエンビセンノウとして記載しておきたい。

標本 長野県諏訪市霧ヶ峰 (今井建樹, 1994.8.5, SHIN 170014)

口絵 2 参照

Lychnis wilfordii Maxim. f. *albiflorum* K. Imai, f. nov. Floribus albis, cetera ut in typo.

Type: Nagano Pref., Suwa-shi, Kirigamine (K. Imai, SHIN 170014). Photo: Plate I - fig.2.

3 ユキワリソウの白花品

白馬山系の八方尾根にユキワリソウの白花品があるとの情報を石原敏行氏から得てこれを確認した。標高2000m前後の地域に紅紫色花と混生していた。この場所は蛇紋岩地帯で、標高が低いのに高山帯の植物が多く遺存しているところである。花卉がいくつか不規則に切れ込む切弁形も見られる。花色以外は形態的にも生態的にも特に差異は認められなかった。未発表であると思われるのでシロバナユキワリソウとして記載しておきたい。

標本 長野県北安曇郡白馬村八方尾根 (今井建樹, 1994.6.15, SHIN 170013)

口絵 3, 4 参照

Primula modesta Bisset et Moore f. *albiflora* K. Imai, f. nov. Floribus albis, cetera ut in typo.

Type: Nagano Pref., Kita-azumi-gun, Hakubamura, Mt. Happo (K. Imai, SHIN 170013).

Photo: Plate I - fig. 3 & 4.

4 ミヤマラッキョウの白花品

1991年7月24日に八ヶ岳の立場川の岸壁標高2100mでミヤマラッキョウの白花品を見いだした。これは完全な白花品であった。花色を除くと形態的にも生態的にも差異は認められなかった。未発表であると思われるのでシロバナミヤマラッキョウとして記載しておきたい。

標本 長野県諏訪郡原村立場川 (今井建樹, 1991.7.24, SHIN 170016)

口絵 5 参照

Allium splendens Willden. f. *albiflorum* K. Imai, f. nov. Floribus albis, cetera ut in typo.

Type: Nagano Pref., Suwa-gun, Hara-mura,

Tatsuba River (K. Imai, SHIN 170016).

Photo: Plate II - fig. 5.

5 ウスバサイシンの緑花品

八ヶ岳の西山麓にウスバサイシンの緑花品があるという事を伊藤三郎氏から聞き調査した。ウスバサイシンは花色が淡汚紅紫色とされているが、黒紫色のもの、淡紅色のものなど変異がある。しかし黒紫色が抜けてやや黄色を帯びているが、ほぼ完全な緑花品といっていいものが見いだされた。花がやや大形である外は特に差異は認められなかった。生育地は標高およそ1700m内外の亜高山帯であった。未発表のものであると思われるのでアオバナウスバサイシンとして記載しておきたい。

標本 長野県諏訪郡富士見町西岳山麓立場川 (今井建樹, 1984.6.2, SHIN 170006)

口絵 6 参照

Asiasarum sieboldii (Miq.) F. Maek. f. *viridiflorum* K. Imai, f. nov. Floribus viridulis, cetera ut in typo.

Type: Nagano Pref., Suwa-gun, Fujimi-machi, Mt. Nishidake, Tatsuba River (K. Imai, SHIN 170006).

Photo: Plate II - fig. 6.

6 ヒオウギアヤメの花色の変異品

志賀高原にヒオウギアヤメの花色の変わりものがあると、春原弘氏から知らされて調査した。その一つは白花品に近いものである。これは外花被片の付け根が黄色を帯び花被片の脈だけ僅かに紫条の残るもので、花色以外は特にヒオウギアヤメとの差異は認められなかった。未発表と思われるのでシロバナヒオウギアヤメとして記載しておきたい。

標本 長野県下高井郡山ノ内町志賀高原東館山 (今井建樹, 1994.7.4, SHIN 170007)

口絵 7 参照

Iris setosa Pallas f. *alba* K. Imai, f. nov. Floribus albis, cetera ut in typo.

Type: Nagano Pref., Shimo-takai-gun, Yamanouchi-machi, Shiga-kogen, Mt. Higashitateyama (K. Imai, SHIN 170007).

Photo: Plate II - fig. 7.

またもう一つは、正常のものは外花被片が青紫色であるのに対して、淡紅紫色となっているものである。これも花色以外は特に差異は認められなかった。未発表と思われるのでウスイロヒオウギアヤメとして記載しておきたい。

標本 長野県下高井郡山ノ内町志賀高原東館山 (今井建樹, 1994.7.4, SHIN 170008)

口絵 8 参照

Iris setosa Pallas f. *rosea* K. Imai, f. nov. Floribus roseis, cetera ut in typo.

Type: Nagano Pref., Shimo-takai-gun, Yamanouchi-machi, Shiga-kogen, Mt. Higashitateyama (K. Imai, SHIN 170008).

Photo: Plate II - fig. 8.

7 ショウキランの白花品

1991年6月28日霧ヶ峰の北側山麓にあたる長門町の鷹山スキー場標高1400mでショウキランの白花品を数株見いだした。生育地はスキーリフトの下で下草刈りがされていて、生育の悪いササが僅かに生えている陽地であった。ここはもともとカラマツの植林地となっていたところである。付近には紅紫色の濃色のショウキランが相当数開花していて、これらと混生状態になっていた。腐生ランの仲間は多くがそうであるように、翌年には同一の場所に生えず異なる場所に見られた。また株数も2~3株多く確認できた。花色が異なるだけで他は特に差異は認められなかった。未発表であると思われるのでシロバナショウキランとして記載しておきたい。

標本 長野県小県郡長門町鷹山スキー場 (今井建樹, 1991.6.28, SHIN 170012)

口絵 9 参照

Yoania japonica Maxim. f. *alba* K. Imai, f. nov. Floribus albis, cetera ut in typo.

Type: Nagano Pref., Chiisagata-gun, Nagato-machi, Takayama (K. Imai, SHIN 170012).

Photo: Plate III - fig. 9.

8 ホソバツメクサの八重咲品

1991年8月31日白馬山系鏈ヶ岳標高2750mで

ホソバツメクサの八重咲品を発見した。これは雄しべが全部弁化して玉咲きとなっていた。生育地は石灰岩地で砂礫地に正常のホソバツメクサと混生していた。この玉咲きは大株の一株だけしか見当たらなかった。花以外はとくに差異は無かった。未発表のものと思われるのでボタンザキホソバツメクサとして記載しておきたい。

標本 長野県北安曇郡白馬村鎗ヶ岳 (今井建樹, 1991.8.31, SHIN 170023)

口絵10参照

Minuartia verna (L.) Hiern var. *japonica* Hara f. *plena* K. Imai, f. nov. Floribus plenis, cetera ut in typo.

Type: Nagano Pref., Kita-azumi-gun, Hakubamura, Mt. Happo (K. Imai, SHIN 170023).

Photo: Plate III - fig. 10.

9 アサマフウロの白花品

アサマフウロは本州中部に分布するものであるが、限られた場所だけに見られる希少種である。花期は8~9月で花径が3~4 cmとフウロソウの中では大きく、花も濃紅紫色で美しい。松田行雄氏が八ヶ岳東山麓の南牧村矢出原標高1350mで白花品を発見した。これは完全な白花ではなく、花弁の脈だけ僅かに紅色を帯びている。花の色を除くと形態的にもまた生態的にも差異は認められない。未発表であると思われるのでシロバナアサマフウロとして記載しておきたい。

標本 長野県南佐久郡南牧村矢出原 (今井建樹, 1991.7.24, SHIN 170016)

口絵11参照

Geranium soboliferum Komar. f. *albiflorum* K. Imai, f. nov. Floribus albus, cetera ut in typo.

Type: Nagano Pref., Minami-saku-gun, Minami-maki-mura, Yadehara (K. Imai, SHIN 170016).

Photo: Plate III - fig. 11.

10 ミヤマニガイチゴの黄色果品

ミヤマニガイチゴの果実は紅熟するのが普通である。ところが春原弘氏から志賀高原には黄熟するものがあると教えられて調査した。

葉は長卵形で3裂し、花枝に2~3個の葉をつけていてミヤマニガイチゴ形である。茎は粉白色で、ミヤマニガイチゴのように紅褐色にならない事が異なり、果実も明らかに黄熟する。生育地は志賀高原の東館山標高1994mの山頂付近の林縁や道路沿いの陽地に群生している。未発表のものであると思われるのでキミノミヤマニガイチゴとして記載しておきたい。

標本 長野県下高井郡山ノ内町志賀高原東館山(今井建樹, 1994.7.4, SHIN 170001)

口絵12, 13参照

Rubus koehneanus Focke f. *xanthocarpus* K. Imai, f. nov. Fructibus flavis, cetera ut in typo.

Type: Nagano Pref., Shimo-takai-gun, Yamanouchi-machi, Shiga-kogen, Mt. Higashitateyama (K. Imai, SHIN 170001).

Photo: Plate III - fig. 12 & 13.

11 オオカメノキの黄色果品

オオカメノキはブナ林や亜高山帯針葉樹林に普通に見られる落葉小高木で、7月下旬から核果は赤色になり後に黒色となる。南アルプスの北沢峠に黄色のものがあるという情報を平出暢氏から寄せられた。そこで1989年と1991年の両年にわたって調査した。その結果、黄色果を着けた樹高5~6mのもの1本が確認出来た。付近にある幼木が果たして黄色果を着けるかどうかは今後の課題である。この黄色果は後に黒色となっていくことも分かった。生育地は標高20500mの針葉樹林下で、果色のほかは特に差異は認められなかった。未発表のものと思われるのでキミノオオカメノキとして記載しておきたい。

標本 長野県上伊那郡長谷村南アルプス北沢峠(今井建樹, 1991.9.6, SHIN 170003)

口絵14参照

Viburnum furcatum Bl. ex Maxim. f. *xanthocarpum* K. Imai, f. nov. Fructibus flavis, cetera ut in typo.

Type: Nagano Pref., Kami-ina-gun, Hase-mura, South Alps, Kitazawa Pass (K. Imai, SHIN 170003).

Photo: Plate IV - fig. 14.

12 ミヤマハンショウヅルの八重咲品

奥原弘人氏から八ヶ岳西山麓の唐沢、標高およそ1900mでミヤマハンショウヅルの八重咲きを発見したとの情報から調査した。ミヤマハンショウヅルの花は大きながく片4枚でその中の方に幅1.5~3m, 長さ1.5cmの花弁が10数枚ある。これに対して八重咲品は雄しべ雌しべとも全部弁化し、これが花弁とともに幅2~4m, 長さ2~2.5cmと大きく、がくと同長若しくはそれより長い状態であった。また、その数も40数枚であった。未発表のものと思われるのでヤエミヤマハンショウヅルとして記載しておきたい。

標本 長野県茅野市八ヶ岳唐沢(今井建樹, 1991.6.10, SHIN 170030)

口絵15参照

Clematis ochotensis (Pall.) Poir. f. *plena* K. Imai, f. nov. Floribus plenis, cetera ut in typo.

Type: Nagano Pref., Chino-shi, Mt. Yatsugatake, Karasawa (K. Imai, SHIN 170030).

Photo: Plate IV - fig. 15.

後書き

野外観察のなかでたまたま出会った白花品を中心に未発表と思われるものについてまとめてみた。情報を提供して戴いた松田行雄・石原敏行・春原弘・伊藤三郎・平出暢・奥原弘人の諸氏に深謝申し上げます。また、信州大学助教授井上健博士には本報の執筆についてご懇篤なる助言とご配慮を賜った。ここに深甚なる謝意を表する。

白馬村の植物2種

石原敏行

Ishihara, Toshiyuki: Two noteworthy plants of Hakuba Village

1 枝咲きのウサギギク

通常ウサギギクの茎は分枝せず、1本の茎を有し、その先端に1個の花をつけるのに対し、北アルプス八方尾根(標高1950~2050m)の蛇紋岩地に花序の枝分かれしたウサギギクを見いだした。茎は太さ3~5mmで、中間部で2つまたは3つに枝分かれし(分かれた枝の太さ1~1.5mm)、それぞれの茎の先に1個の花をつける。八方尾根の限られた地域に30~40株群生している。花期8~9月。花序が枝分かれする以外はウサギギクと異なる。他に報告がないと思われるのでハッポウウサギギクと命名したい。

標本 長野県北安曇郡白馬村八方尾根(石原敏行, 1994.8.19, SHIN 176768)

口絵16参照

Arnica unalaschensis Less. var. *tschonoskyi* (Iljin) Kitam. et Hara f. *ramosus* T. Ishihara, f. nov. Inflorescentia ramosus et flores plural.

Type: Nagano Pref., Kita-azumi-gun, Hakubamura, Mt. Happa (T. Ishihara, SHIN 176767).

Photo: Plate IV - fig. 16.

2 苞の2枚あるミズバショウ

北アルプス北部の白馬村落倉自然園内に生えるミズバショウの中に仏縁苞が2枚向かい合ってついているものが見いだされた。仏縁苞が2枚ある以外はミズバショウと異ならない。苞は葉が変化したものと考えられているので1枚多くついていると考えればよいのだが、園内に30~40株ぐらいあるので1品種とみてオチクラミズバショウと命名したい。

標本 長野県北安曇郡白馬村落倉自然園(石原敏行, 1994.5.22, SHIN 176767)

口絵17参照

Lisichiton camtschaticense (L.) Schott f. *bibracteata* T. Ishihara, f. nov. Bracteae duo, cetera ut in typo.

Type: Nagano Pref., Kita-azumi-gun, Hakubamura, Ochikura (T. Ishihara, SHIN 176767).

Photo: Plate IV - fig. 17.